

ニッポン成長株オープン(愛称 一等星)の運用状況

ニッポン成長株オープン(愛称 一等星)

追加型投信/国内/株式

2017年2月9日

当ファンドは、2月6日に第4期の決算を迎え、200円（1万口当たり、税引前）の収益分配を行いました。本レポートでは、第4期（2016年8月6日～2017年2月6日）の投資環境や運用状況、ならびに、今後の投資環境見通し等についてご報告いたします。

1. 第4期の投資環境

第4期の国内株式市場は、米国長期金利の上昇を背景とした円安ドル高の進行や、国内企業の4-6月期決算の内容が懸念されたほど悪くなかったことなどから、期首から10月にかけて緩やかに上昇しました。11月に入ってから、米大統領選挙でトランプ候補の優勢が明らかになり、米国の政治リスクに対する懸念が強まり、一時急落しました。しかしその後は、トランプ氏が提唱してきた経済政策に対する期待を織り込む形で景気敏感株や外需関連株を中心に、上値を試す展開となりました。12月中旬以降は、短期間での株価上昇に対する警戒感などから国内株式市場は高値圏でもみ合う展開となりました(図表1)。

2. 第4期の運用状況

第4期の当ファンドの運用につきましては、企業の中長期的な利益成長ポテンシャルに着目して銘柄選別を行いました。具体的には、インドの粗鋼生産拡大の恩恵を受けると考えられた黒崎播磨や、世界的にインフラ投資が拡大すると見通しのもと、建設機械向け部品の販売増加が期待されたトピー工業などを新規に組み入れました。一方、動画サービスの収益化が想定よりも遅れると懸念されたサイバーエージェントや、経営統合に対する期待が株価に織り込まれつつあると考えられたコカ・コーラウエストなどを売却しました(図表2)。

第4期末の当ファンドの基準価額は10,397円となりました。第4期末に1万口あたり200円(税引前)の収益分配を行いましたので、第4期の基準価額の値上がり額は分配金を含めて1,246円となりました。基準価額に対しては、山一電機、スタートトゥデイ、ビジョンなどがプラスに寄与した一方、ピーシーデポコーポレーション、セプテーニ・ホールディングス、カカコムなどがマイナスに寄与しました(図表3)。

(図表1) TOPIX (東証株価指数) の推移



(図表2) 主な売買銘柄

買付銘柄	売却銘柄
黒崎播磨	サイバーエージェント
トピー工業	コカ・コーラウエスト
UACJ	日本M&Aセンター

(期間) 2016年8月6日～2017年2月6日

(図表3) 基準価額に寄与した主な銘柄

プラス寄与	マイナス寄与
山一電機	ピーシーデポコーポレーション
スタートトゥデイ	セプテーニ・ホールディングス
ビジョン	カカコム

(期間) 2016年8月6日～2017年2月6日

3. 今後の投資環境見通しと運用方針

国内株式市場は、上昇基調で推移すると考えております。米新政権による大規模な減税やインフラ投資拡大などによる米国の経済成長への期待や、前年対比での円安ドル高の進行に伴う日本企業の収益改善への期待などが、株価を押し上げる材料になると見られます。ただ、米国のインフレ圧力の増大や、米国の長期金利上昇に伴う新興国からの資金流出への懸念などが株価の上値を抑える要因になると思われます。

当ファンドの運用につきましては、高い技術力、優れた商品開発力、特徴あるビジネスモデル、事業構造の改革などにより、利益成長が期待される企業を重視し、バリュエーション、業績の変化、イノベーション等に注目して銘柄の選定を行います。引き続き、独自のビジネスモデルで成長を図っている銘柄など、中長期的な利益成長ポテンシャルが高いと考えられる銘柄の選別を通じてパフォーマンスの向上に努めてまいります。

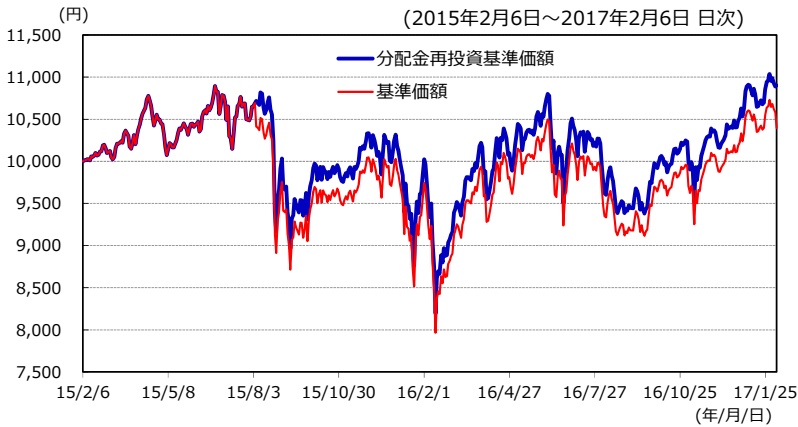
＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、「ニッポン成長株オープン(愛称 一等星)」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

ニッポン成長株オープン(愛称 一等星)
追加型投信/国内/株式

運用状況 (作成基準日: 2017年2月6日)

設定来の基準価額の推移



ファンドの状況

基準価額	10,397円
純資産総額	7,103,449,725円
株式組入比率	94.1%
組入銘柄数	76銘柄

※ 基準価額は1万口当たりです。

- ※ 左記のグラフの基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。
- ※ 設定日の基準価額は1万口当たりの当初設定元本です。
- ※ 分配金再投資基準価額とは、設定来の分配金(税引前)を当該分配金(税引前)が支払われた決算日の基準価額で再投資したものと計算した基準価額です。
- ※ グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

組入上位10業種

順位	業種名	構成比
1	サービス業	13.5 %
2	電気機器	11.5 %
3	情報・通信業	11.4 %
4	化学	11.3 %
5	小売業	10.1 %
6	機械	5.0 %
7	医薬品	3.9 %
8	卸売業	3.5 %
9	ガラス・土石製品	3.5 %
10	食料品	3.5 %

組入上位10銘柄

順位	銘柄コード	銘柄名	構成比
1	3092	スタートトゥデイ	3.4 %
2	4403	日油	3.2 %
3	6345	アイチ コーポレーション	3.1 %
4	6941	山一電機	3.0 %
5	4587	ペプチドリーム	2.9 %
6	4633	サカタインクス	2.8 %
7	4290	プレステージ・インターナショナル	2.4 %
8	5352	黒崎播磨	2.3 %
9	9830	トラスコ中山	2.3 %
10	3258	ユニゾホールディングス	2.1 %

市場・規模別構成比

市場・規模別	構成比
東証1部大型株	0.0 %
東証1部中型株	11.4 %
東証1部小型株	65.2 %
東証1部その他	0.0 %
東証2部	2.6 %
JASDAQ	6.5 %
東証マザーズ	8.4 %

- ※ 業種、銘柄、市場・規模別の各構成比は、いずれも当ファンドの純資産総額に対する比率です。
- ※ 市場・規模別構成比は四捨五入して表示しておりますので、上記、株式組入比率の合計値と一致しないことがあります。

ニッポン成長株オープン(愛称 一等星) ファンドの特色

- 日本の成長が期待される企業の株式※へ投資を行います。
※日本の金融商品取引所上場(上場予定を含みます。)株式を主要投資対象とします。
- 成長企業の選別にあたっては、高い技術力、優れた商品開発力、特徴あるビジネスモデル、事業構造の改革などにより、利益成長が期待される企業を重視します。なお、新興市場の株式に積極的に投資することがあります。
- 銘柄の選定にあたっては、ボトムアップ・アプローチを基本とし、バリュエーション、業績の変化、イノベーション等に注目します。
- 株式の組入比率は高位を保つことを基本としますが、投資環境や市況動向に対応し投資信託財産の純資産総額の0%から100%の範囲で機動的に変更する場合があります。なお、株式の実質組入比率の引き下げを目的として、株価指数先物取引を行う場合があります。



(作成: エクイティ運用部)

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、「ニッポン成長株オープン(愛称 一等星)」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はおお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。



ニッポン成長株オープン(愛称 一等星)
追加型投信/国内/株式

ニッポン成長株オープン(愛称 一等星)に関する留意事項

【岡三アセットマネジメントについて】

商号：岡三アセットマネジメント株式会社

岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長（金商）第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

【投資リスク】

- 投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様には帰属します。ファンドは、国内の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。
- ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「流動性リスク」、「信用リスク」があります。
※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

【その他の留意点】

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご参照ください。

【お客様にご負担いただく費用】

<お客様が直接的に負担する費用>

- 購入時
購入時手数料：購入価額×購入口数×上限3.24%(税抜3.0%)
詳しくは販売会社にご確認ください。
- 換金時
換金手数料：ありません。
信託財産留保額：ありません。

<お客様が信託財産で間接的に負担する費用>

- 保有期間中
運用管理費用（信託報酬）
：純資産総額×年率1.6632%（税抜1.54%）
- その他費用・手数料
監査費用：純資産総額×年率0.0108%（税抜0.01%）
- 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を信託財産でご負担いただきます。（監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。）
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

販売会社

(受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。)

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
(金融商品取引業者)					
藍澤證券株式会社	関東財務局長(金商)第6号	○	○		
飯塚中川証券株式会社	福岡財務支局長(金商)第1号	○			
臼木証券株式会社	関東財務局長(金商)第31号	○			
寿証券株式会社	東海財務局長(金商)第7号	○			
篠山証券株式会社	近畿財務局長(金商)第16号	○			
静岡東海証券株式会社	東海財務局長(金商)第8号	○			
島大証券株式会社	北陸財務局長(金商)第6号	○			
株式会社証券ジャパン	関東財務局長(金商)第170号	○			
新大垣証券株式会社	東海財務局長(金商)第11号	○			
株式会社しん証券さかもと	北陸財務局長(金商)第5号	○			
大山日ノ丸証券株式会社	中国財務局長(金商)第5号	○			
頭川証券株式会社	北陸財務局長(金商)第8号	○			
東武証券株式会社	関東財務局長(金商)第120号	○			
長野証券株式会社	関東財務局長(金商)第125号	○			
奈良証券株式会社	近畿財務局長(金商)第25号	○			
西村証券株式会社	近畿財務局長(金商)第26号	○			
播陽証券株式会社	近畿財務局長(金商)第29号	○			
リーディング証券株式会社	関東財務局長(金商)第78号	○			
六和証券株式会社	近畿財務局長(金商)第37号	○			

※販売会社によっては、現在、新規のお申込みを受け付けていない場合があります。

<本資料に関するお問合わせ先>

カスタマーサービス部 フリーダイヤル **0120-048-214** (9:00~17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)